

実社会対応プログラム(課題設定型研究テーマ)

◆課題(研究領域):「疫病の文化形態とその現代的意義の分析 —社会システム構築の歴史的考察を踏まえて—」

◆研究テーマ:「医学史の現代的意義—感染症対策の歴史化と医学史研究の社会との対話の構築」

研究期間:H27.10~H30.9

委託費総額:27,000千円

<研究代表者>

慶應義塾大学経済学部/教授 鈴木晃仁



<専門分野>医学史

<Webページ>

<http://user.keio.ac.jp/~aaasuzuki/BDM>

H/home.htm

<研究目的・概要>

かつて医学史は、医師を中心とした医療者の医学の進歩が研究の中心であったが、新しい医学史は、過去の医療記録のアーカイブズの利用と共に一般社会(患者、患者の家族、医療行政者など)との接触をめざしてきた。この研究はその動きをさらに発展させるものである。



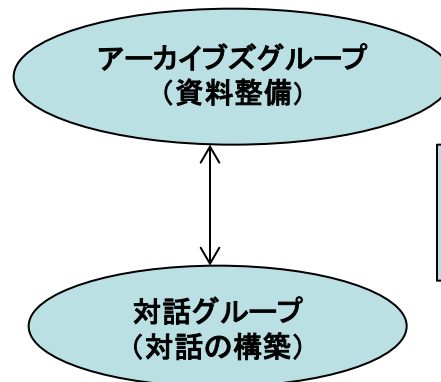
歴史研究の基盤としてのアーカイブズの構築と理論的な考察を深めると、医療者と患者を中心にした人々と医学史研究者との対話・相互作用の理論を構築することにより医学史のさらなる発展をめざす。

- ・アーカイブズについては、感染症の抑制に関する疫学的なデータを集約し、実務者と協力して検証を加えながら整理する。
- ・実務者であるアーティストや編集者とも協力し、医療者・患者たちと医学史研究家の交流と対話を行う。
- ・整理したデータや研究成果についてはネットワークを構築し、広く一般に公開する。



実社会に向けて開かれた医学史研究の実践を通し、人々の医学史への知識を深めることに貢献する。

<研究計画の特徴>



両グループのうち数名は双方に関わり、橋渡しの役割を果たす

<目標とする研究成果>

新しい医学史の視点と方向性を盛りこんだウェブサイトを構築し、それに対応した書籍を刊行する。

ウェブサイトは、アーカイブズの整理と新しい問いに関するものと、その成果を含む研究の蓄積を医療者、患者、関係者、一般市民に向けて発信し反応をもらうための二種類となる。可能な限り英語その他の多言語による発信を試み、SNSなどとの連携も埋め込んで、学術的・国際的な発信と交流、実社会の医療にかかわる人々への発信と交流を含んだ仕掛けを作ることが大きな特徴となる。